

「おはよう。」私の一日はその一言で始まります。今ではそれが当たり前です。きっと多くの人がそれを当たり前としていていると思います。でも、ついこの間までこのことは私にとって当たり前ではありませんでした。

小学校の高学年の頃から親に反発するようになり、“あいさつ”というものをすることがなくなっていました。それは親にだけでなく、学校の先生や地域の方に対しても同じでした。注意は何度かされましたが、正直「あいさつだけでうるさいな・・・。」と心のどこかで思っていました。その時の私は、まだ“あいさつ”というものの大切さに気づいていなかったのです。

私がいさつの大切さを知ったのはあることがきっかけです。毎朝、私がいさつを返さなくても、いつも笑顔であいさつしてくれた家族や地域の方がだんだんあいさつをしてくれなくなっていることに気づいたのが始まりです。いつものように起き、何も考えずに家族のいる部屋に行っても、いつものような「おはよう。」のあいさつはなく、学校へ行く間、地域の方に会ってもいつものあいさつが少なくなっていることを感じました。初めのうちは、「親は朝、忙しいし、地域の方も気づいてないだけだろう。」と思っていた私もそんな日が続くうちに「私がいさつをしないからみんなもあいさつをしてくれないのではないか。」ということに気づきました。それに気づいた私は、なぜか心がしめつけられるように苦しく、淋しい気持ちになりました。その時の気持ちは、今でもはつきり覚えています。それから私は「誰にでもきちんとあいさつをする。」と心に誓いました。初めは「あいさつをする。」という簡単なことなのに少し抵抗がありました。でも、勇気を出して「おはよう。」と言うと、相手も笑顔で「おはよう。」と答えてくれました。それだけで心が温かくなり、周りの景色までもが明るく見えたような気がしました。そして私はいさつをすることの気持ちよさを知りました。

ある日、私はいつも通学路のバス停に立っているおじさんにあいさつをしました。でもそのおじさんは一瞬私を見て、何も言わずにバス停に座ってしまいました。私は少し悲しかったけど、その後あることに気づきました。「私も前まではこんな感じだったんだ・・・。」その時初めて、いつもあいさつをしてくれていた親や地域の方の気持ちが変わりました。次の日、私はそのおじさんを見て「あいさつをしても返してくれないし、あいさつをするのをやめようかな・・・。」と思いました。でもよく考えると私がいさつを返さなくても親や地域の方はいつもあいさつをしてくれて、そのおかげで私は変わったのです。それから私は、そのおじさんを見るたびに、めげずにあいさつを続けました。するとある日、小さな声だったけど「おはよう。」という声が聞こえました。私はうれしくなって、あいさつ一つでこんなにも人の心が動くことを知りました。全く知らない人なのに不思議な気持ちです。一日がと

でも気持ちよくスタートできました。

この体験から私はあいさつの大切さについて考えさせられました。あいさつは人と人をつなぐ第一歩です。一日の始まり、そして終わり、感謝、また反省の言葉。たった一言だけどあいさつは人の印象を大きく変えるものであり、人の心を左右することさえある大切な言葉だと痛感しました。「おはよう。」「おやすみ。」「ありがとう。」「ごめんなさい。」「とても素敵な言葉です。私はこれからこの一言に心を込めて伝えようと思います。知らない人と話すことが苦手な私にとって自分からあいさつをすることは勇気のいることです。でも今日から実行します。大きな声で「おはよう。」「と。

今日の一日が私にとって、そして相手にとって素敵な一日になるように心を込めて。